



## \* デンマーク生活便り ⑥ \*

### デンマークの生活 6 大学 Universitet 理事長 千葉忠夫

高等学校卒業後の進路は大学へと繋がる訳だがデンマークには学士号の取得を持って修了する大学(University College)と修士号、Phd へと繋ぐ大学 University の二つの上級教育機関が存在する。学士号で修了する課程は3年半から4年を要し、国民学校教員、生活指導教諭、看護師、助産師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、レントゲン技師等の資格を取得することが出来る。修士号取得には最低6年を要し、医師、歯科医、弁護士、薬剤師、臨床心理士、建築士、エンジニア、ジャーナリスト、その他文学修士、社会学修士、経済学修士、農学修士等を取得するものが進学する。修士号を取得後は Phd への道が開かれている。

4年生の大学あるいは6年生の大学いずれの大学へ進学する場合も入学試験は無い。何故なら国が実施する高等学校卒業試験\*1に合格していれば誰でも大学へ進学できるのである。ただし医学部、法学部等への進学は高校卒業時の成績が優秀でないと入学は難しい。また、国民学校教員\*2や生活指導教諭\*3の資格取得のための4年制大学への入学資格は高校卒時の成績優秀者が20~30%で他は高校卒業後職場経験者、フォルケホイスコーレ\*4在学経験者あるいは世界を旅して来た者などが入学を優先される。

一般的に高校を卒業後即大学へ進学と言う伝統はなく、むしろ1~2年さまざまな社会経験を積んで進学する者が多い。逆に国民学校卒業後職業別専門学校(約3年)を終え、一旦就職した者が大学進学を希望する場合には高卒の資格あるいは大検を取ればその道は開かれるので、大学は希望する者には何時でも開かれていると言うことである。若者の人生の進路に何時も選択肢がある。

普通高校\*5を卒業した者たちのその後の進路は約25%が4年制大学、約25%が6年制大学へ進み、約25%は3年くらいのOJT 職業別上級専門学校教育\*6、他の約25%は2年位で資格が取れる例えば社会保健介護士\*7などである。デンマークの若者が上級学校に進学する理由は将来自分が就きたい職業に必要な資格、知識や技能を得るためであって決して学歴社会のために大学へ行くのではな

い。日本のように大学全入などと言うことは絶対ありえないのである。日本にいる友人の大学教授が学生に日常生活の躰まで教えなければ成らないと聞いて呆れた。大学とは何か、最高学府の意義は何なのか私たちはしっかりと理解し単なる学歴社会のための大学入学は無意味であることを認識すべきである。前述の大学生に対する躰などはそもそも親が為すべきものである。さもないと国民全てが受ける義務教育の場の為すべきで、それを大学まで引きずって行くのは可笑しい。

[ 注釈 ]

- 1 高等学校卒業試験とはデンマークの高等学校は全て国立で学校差が無い。国が実施する統一の試験(student examination)に合格すれば誰でも大学への入学資格を有する。
- 2 国民学校教諭とは1年生から9年生までを受け持つので日本の小中学校教諭と同じである。0学年は主に生活指導教諭が担当する。
- 3 生活指導教諭は日本に無い資格で、保育園、幼稚園、学童保育、養護施設、障がい者施設等で勤務する職員のことである。
- 4 世界に例のない Folke Højskole を直訳すると Folke は国民 Højskole は大学なので、従来の国民高等学校より国民大学あるいは市民大学と訳すのが適切である。1844年最初の Folke Højskole が Grundtvig(1783-1872)の教育思想によって創設された。修業期間は3~4ヶ月最長でも1年位。デンマーク文部省は試験を課してはいけないう資格も与えてはいけないうと規定している。このフォルケホイスコーレの存在が後にデンマークを社会福祉国家に築き上げた大きな要因に成っていると言われる。  
2ページの記事参照。
- 5 世界中何処の国を見ても高等学校の教育内容を無理なく理解できる人は国民の約30%程度と言われている。日本は高等学校進学率が100%近いことに疑問を持ちませんか？
- 6 高校卒業後就職した職業に関係する職業別専門学校の高級コースに仕事を続けながら入り資格を取得する。OJT: On the Job Training が上手く機能することで、誰もが安心して生きていける社会の土台が作られていくのではないだろうか。
- 7 デンマークの社会保健介護士は看護師と準看の中間くらいの教育を受けているので多少の医療行為も出来るので病院勤務も可能である。

## 「人生の主人公」

北口陽子(在デンマーク)

デンマークに初めて降り立ったのは8年前の夏。大学一回生の時に学校から行かせていただいた社会福祉短期研修だった。その短期研修でデンマークの社会福祉制度に感銘を受け、いつか長期の学生で来ようと思いつつ、実現できないまま憧れだけが募っていった。一度就職し、現場での貴重な経験をさせていただいた後、2011年の夏に再びデンマークに渡った。日欧文化交流学院での学生生活、後のオーデンセでの半年の大学生活、そして現在のワーキングホリデーの生活。気がつけば1年半の時間が流れていた。

人々の暖かさ、そしてデンマーク社会のセーフティーネットに暖かく包まれながら、様々な「初めて」を経験した。そして受身の自分から、「自分の人生を生きる主人公」として一歩ずつ歩みだすことができた。

様々な出逢いが繋がって、人生が思わぬ方向に進んで行く。その中でも自分で決断をし、責任も自分でとる。自分のために、相手のためになぜその選択をするのか、考えられるようになった。疑問を持つことの大事さ、疑問から気づきに至る過程を繰り返し経験することによって、人生の主人公であるという

## 「学院から学んだ事」

伴 美奈子(在デンマーク)

私は2012年8月～12月の間、ノーフェンスフォルケホイスコーレ(以下 NFH)に滞在しました。NFHは童話作家アンデルセンの生誕の地、オーデンセから北西に約30キロ離れたボーゲンセという自然豊かな町にあります。フォルケホイスコーレとは18歳以上の成人対象の全寮制学校で、生徒同士や生徒と先生間の対話による相互作用を重要視する「自らが主体性を持って学ぶ場所」です。

NFHには肥満の人対象のダイエットコース、一般の教育システムから外れてしまった生徒のためのコース、知的障害を持つ人のためのコース、主にEU圏内の学生を対象としたインターナショナルコース、そして私が参加した日本人を対象としたデンマークの社会福祉を学ぶSOSUコースの5つがあります。

私は社会福祉士の資格を持っているので、「ノーマライゼーション」については理解しているつもりでした。しかし、実際に身体的／知的／精神的に障害を持つ人々や、日本では「問題児」と呼ばれかねない若者達とも寝食を共にし、一緒に授業を受け、台所の当番をし、週末にはパーティーをし、

こと、一人の日本国民としての主体的存在であることが私の中に芽生え始めたのかもしれない。人生は、待っているだけでは幸せはやってこない。自分で行動して初めて手にすることができる。社会も同じ。誰かに良くしてもらおうと待っているだけではいつまでたっても自分の思う「住みよい」社会にはならない。自分たち自身で「住みよい社会とは何か」を議論し、力を会わせて行動していくことで初めて自分たちの思う「住みよい」社会が生まれる。人生の主人公であること、一人の国民としての主体性は、デンマークでの生活が教えてくれたものだった。

「今幸せですか？」そう聞かれて私は迷いなく「はい」と答えられる。そうなったのは、自分の「人生の主人公」として生きていけるようになったから。良いことばかりではない。でもそれで良いのだと受け入れられるようになった。それは社会全体が個人を支えてくれる安心感があるからなのだろう。個人が税金として国に投資し、国が社会のセーフティーネットを整備する。その仕組みが上手く機能することで、誰もが安心して生きていける社会の土台が作られていくのではないだろうか。



外国へ修学旅行行にも行くという経験を通し、いかに自分の理解が浅薄であったかを思い知らされました。

国籍、人種、文化、年齢、性別、障害の有無など、人には生きてきたバックグラウンドの違いが沢山あります。私が普通に生きているのと同じで、だれもが個人として尊重され、普通に生活することが当たり前という社会がNFHにありました。

私はNFHで、多様性を受け入れること、自分自身を深く理解すること、他者を尊重すること、そして多様性のあるコミュニティで、皆が納得して生活できる環境作りの一員となることの大切さを学ぶことが出来ました。そして、社会福祉国家は制度やサービスによってのみもたらされるのではなく、その裏側にある思想や理念こそが重要だということに気づかされたことが貴重な収穫となりました。

NFHは小さなコミュニティです。しかし、ここで体験し、感じた事、考えた事は、大きな外の社会に戻った時にきっと役に立つと思います。長い一生の中のたった4ヶ月です。みなさんも是非体験してみてください。

## 総まとめ報告 ★ 研修塾 in 沖縄

☆2013年2月22日～24日

参加者 安里強平

第三回の研修塾では最後のグループワークを通して「日本再建の処方箋（解決策）」を考えました。3グループに分かれて5つの処方箋（解決策）を挙げるという内容です。2日目の夜、各グループ遅くまで話し合いを行い、その結果を3日目で報告。さらにそこから全体の意見をまとめて今回の研修グループ全体で考える「日本再建の処方箋」を5つ挙げました。



まとめの議論をするグループリーダーたち

### 1 民主主義

→真の民主主義を目指す。日本ではマイノリティの意見はなかなか反映されない。日本人は日本人同士の幸せの在り方を論議したのだろうか。多数決ではなく、議論をしたのだろうか。

### 2 教育

→「あなたの絵は凄いい！」ではなく「あなたの絵の色使いがステキ！」など具体的な褒め方をする。それによって競争意識がなくなる。競争意識を生むと差別が起こってくる。個性を尊重した教育。プロセスを見せる事で本質を見る目も養える。

### 3 博愛

→経済的格差がある日本。助け合いの意識が欠如してバランスが取れていないのでは。自分を愛することは出来る。他人を愛せているだろうか。

### 4 自然環境

→地球上で生きていく上で切り離せない問題。地震、津波、台風。原発を維持させているのは本質的な解決になっていないのではないか。その場しのぎではないか。

### 5 セーフティネット

→生活保護費を支給することで日本のセーフティ

ネットは機能しているか。国民の幸せな生活は保障されているか。議論の中で日本に必要とされるセーフティネットの構築を行うべきでは。

今回初参加になりますが参加者の皆さんと議論しあい、1つの答えを導きだしていくという経験ができたことに凄く満足しています。これが「民主主義」的な解決方法なのか、と肌で実感できました。

今回の研修は幅広い年齢層の方が参加しており、若者だけに偏った意見、中高年に偏った意見がなくすべての参加者が満足する議論が出来たと思います。この様な議論を今の日本で行う為にどの様に私たちはどう行動していくのか、地域で出来る事は何か。これからも考え続けていくことが必要になっていくと思います。

会食の席でベンツさんがこんなことを話されていました。

「新しい道はケガ無くして切り開けない。切り開いた所に新しく道ができる。」参加者はこの研修で得たものをそれぞれどう活かしていくのか、次回の研修への楽しみも残しながら今回の研修は終了しました。

3日間の研修で様々な人達と交流・議論が出来た事が大変学びになったのと同時に、次回の京都での第4回研修で会えるのを楽しみにしております。

最後に、この研修の運営・企画をしてくれた皆様には感謝いたします。ありがとうございました。

## \* 真の民主主義とは ⑥ \*

理事 前田正志

日本で本当に民主主義が必要なのか。そんな疑問を持たれる人もあろうかと思えます。

現実に生命、身体、財産、尊厳への危害が加えられていない限り、あるいはそれを認識していない限りは民主主義の必要性は理解されないかもしれません。

日本国という国家の運営についての最高原則は日本国憲法です。そこには「(日本国憲法が)国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない」とあります。「仏作って魂入れず」ではいけません。自分たちに保障されている自由や権利について自覚・熟知し、それらを持ち続けるための努力を継続する責任を果たさない限りは、デンマークのような暮らしやすい社会はつくれないのです。

### 【第6回の実践】

自分が民主主義に守られている存在であることを自覚し、責任を果たそう。

## 「社会を変える定義の理解」要旨

講師：(Odense 生活指導教諭養成大学講師)

**Bent Laursen** (ベンツ・ラウアセン) 氏

要旨まとめ 参加者 茂木 俊郎

社会には三つのタイプがある。

一つはリアリズムの社会 (A)。これは人間を Object (物。コンピュータ用語の、処理の対象となる一群のデータ、というニュアンスに近い) として扱う「制度優先」の社会で、生産性を重視する社会や軍隊はこれに当たる。必要な知識学力を身につけるための国民学校 (日本の義務教育に相当する) に向いている社会システムである。

第二はヒューマンイズムの社会 (B)。これは個々の人間が主体となる社会で、情緒的な物が必要とされる集団に向いている。保育園、幼稚園 (0～6 才児) のように、人格の基礎を形作る場所はこのような社会でなければならない。



講師の  
ベンツさんと  
通訳する  
千葉忠夫理事長

最後は対話型の社会 (C)。これはリアリズムとヒューマンイズムのバランスが取れた社会である。

三つ子の魂百まで、というように幼児期には B 型の社会で育つことがとても大事なことだが、現代の日本は B 抜きに A に行こうとする社会である。日本の児童の自殺率の高さも、それが大きな要因である。それでは大切な国の人的資源を壊してしまうことになる。

政治に当てはめれば A はトップダウンの社会であり、下からのアイデアは出てこない。

理想の社会は対話型社会である。そして優れたリーダーとは、役割分担をしっかりとやることができる人である。

現代は立ち止まって考える余裕を与えないが、哲学とは絶えざる質問の謂いである。

編集後記：(小さな幸せ便り)

小さな春の積み重ねで春爛漫は確かにやって来る。なにげない野の花に季節を感じ、風情を愛でることができる日本の四季の移ろいに感謝!といえる余裕がない今日この頃を反省する。人生のはかなさを年初から味わった。大震災からはや 2 年。いまだに仮設住宅に住む方々もいる。沖縄の研修塾で福島被災者の鈴木さんご夫妻と再会。お二人の奇跡の再会秘話に幸せを戴いた。今回の研修も素晴らしかった。琉球魂に触れ美食に溢れ幸せ。その上 7 号は編集を茂木氏が引き受けてくださり最高に幸せ。文章は安心してお任せできる。次回から大きな幸せ便りを期待できる。色々な方に助けていただき幸せに多謝 ♡ 編集責任者:野屋敷いとこ

## 事務局からのお知らせ

### 第 4 回研修塾 (Weekend Folkehøjskole in Kyoto) 開講延期について

当初の予定 (2013 年 5 月) は講師及び会場などの都合により、2013 年 11 月 15 日 (金)～17 日 (日) に延期致しました。日本再建のテーマを教育問題 (幼児教育/義務教育など) とする予定です。

詳細は決まり次第ホームページに掲載し、第 8 号でお知らせします。

### \* 通常総会のお知らせ \*

☆日時：2013 年 5 月 18 日 (土) 午後 1 時～5 時

☆会場：TKP 小伝馬町ビジネスセンター

中央区日本橋小伝馬町 1-4

電話：03 (5217) 5578

(会員には別途通知します。)

☆終了後、午後 6 時から懇親会を開きます。

☆会場：午後 6 時～「永昌園」(JR 神田駅徒歩 3 分)

千代田区鍛冶町 1-7-16

電話：03 (3258) 3225

☆会費：4 千円 (当日受付でお支払いください。)

一般の方もご参加いただけますが、予め事務局宛

e-mail：[djsli@hotmail.co.jp](mailto:djsli@hotmail.co.jp) または

Fax 03-3712-6902 でお申込み下さい。

### ☆勉強会再開のお知らせ☆

千葉(稲毛)での勉強会は会場の都合により昨年末に閉会いたしました。参加者の方々の強いご要望により 2 月より再開いたしました。会場はメンバーの方のお店です。新メンバーも加わり熱い話し合いがなされています。世界各国の生活経験者達のお話から日本の国の再生を語り合っています。お気軽にご参加ください。

\*毎月第二金曜日：18:00～20:00 京成稲毛駅前

\*お問い合わせは Tel 080-9414-5115 まで。

発行所

〒274-0822

千葉県船橋市飯山満町 2-515-2

お問合せ Tel:080-9414-5115

NPO 法人新ホームページ

<http://www.djsli.com> (URL が変更)

オフィシャル・メールマガジン再開しました  
ご希望の方は [djsli@hotmail.co.jp](mailto:djsli@hotmail.co.jp) まで  
「メルマガ希望」とお申し出ください。